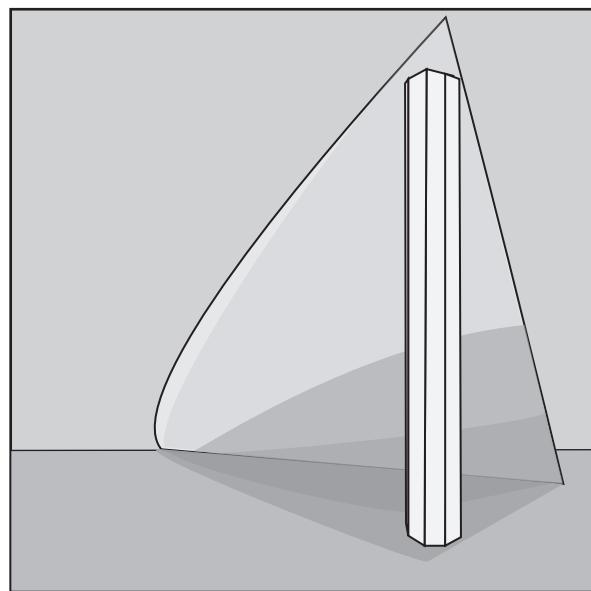


# ~~跨ぐ、潜る~~

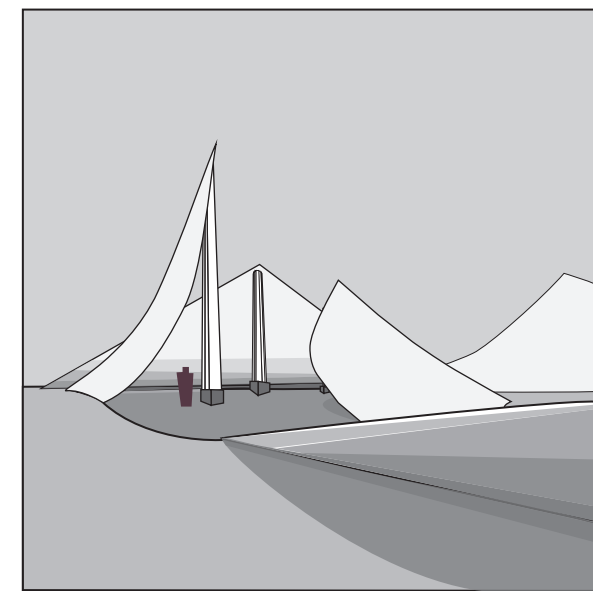
## 形式の崩壊による境界と領域の再定義

神社は町と同一の GL で密接に接続していた。  
しかし、現代にいたるまで鳥居を境に町の GL は変化し続けている。  
鳥居という線的な境界は町と神社の GL の乖離を生んでしまっている。  
町との接続を取り戻すため、**鳥居という関について新たな形態**を提案する。



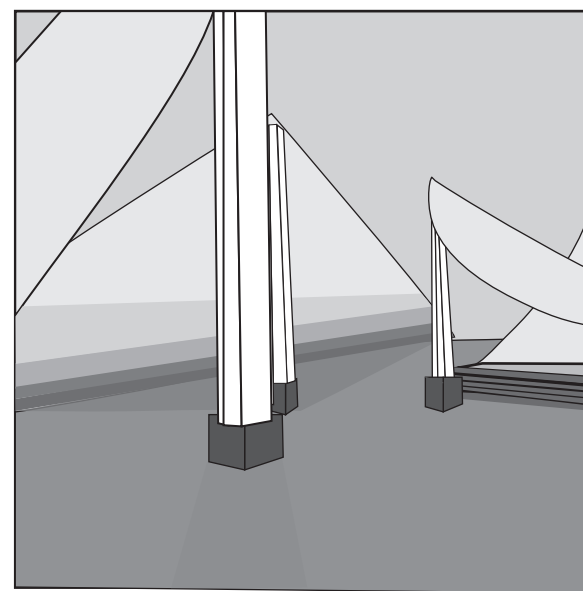
無垢との邂逅

日常から神社に向かう中に  
それは姿を現す。



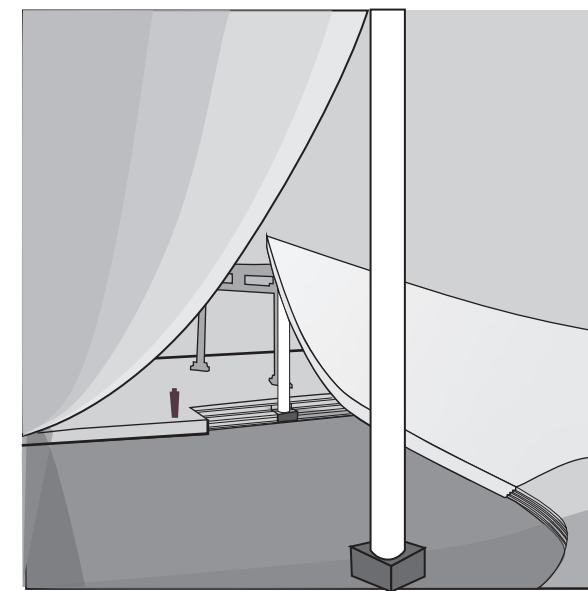
崩された領域

空間性が崩された領域では  
周囲の情景で日常のように補充される。



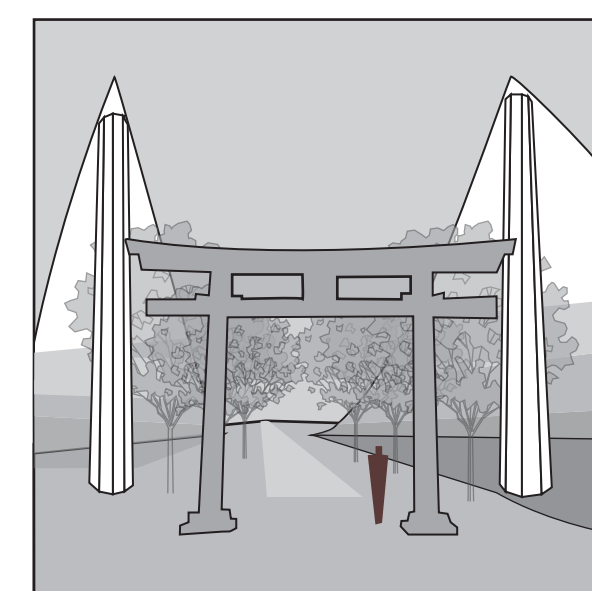
解釈の拡大

簡素な情景に映し出される  
柱にはこの先にある鳥居を思わせる。



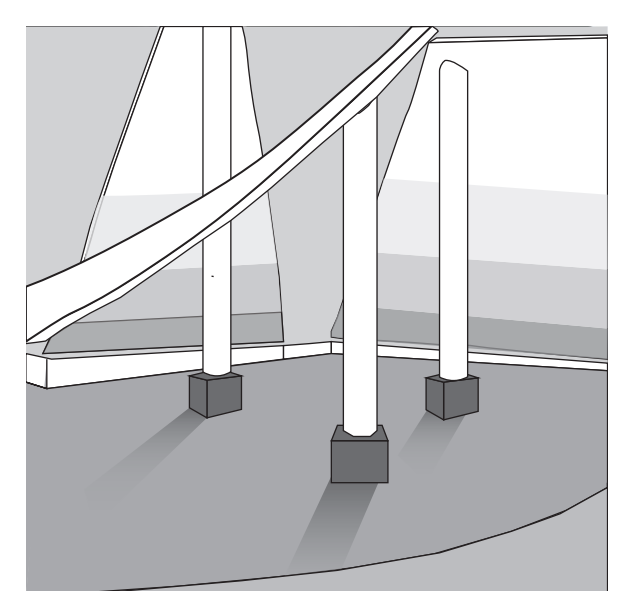
境内との接続

現れる鳥居は拡大された解釈と  
一致し、崩された領域が一貫する



越境、参拝

境界線を越える。洗練された領域につ  
ながる。



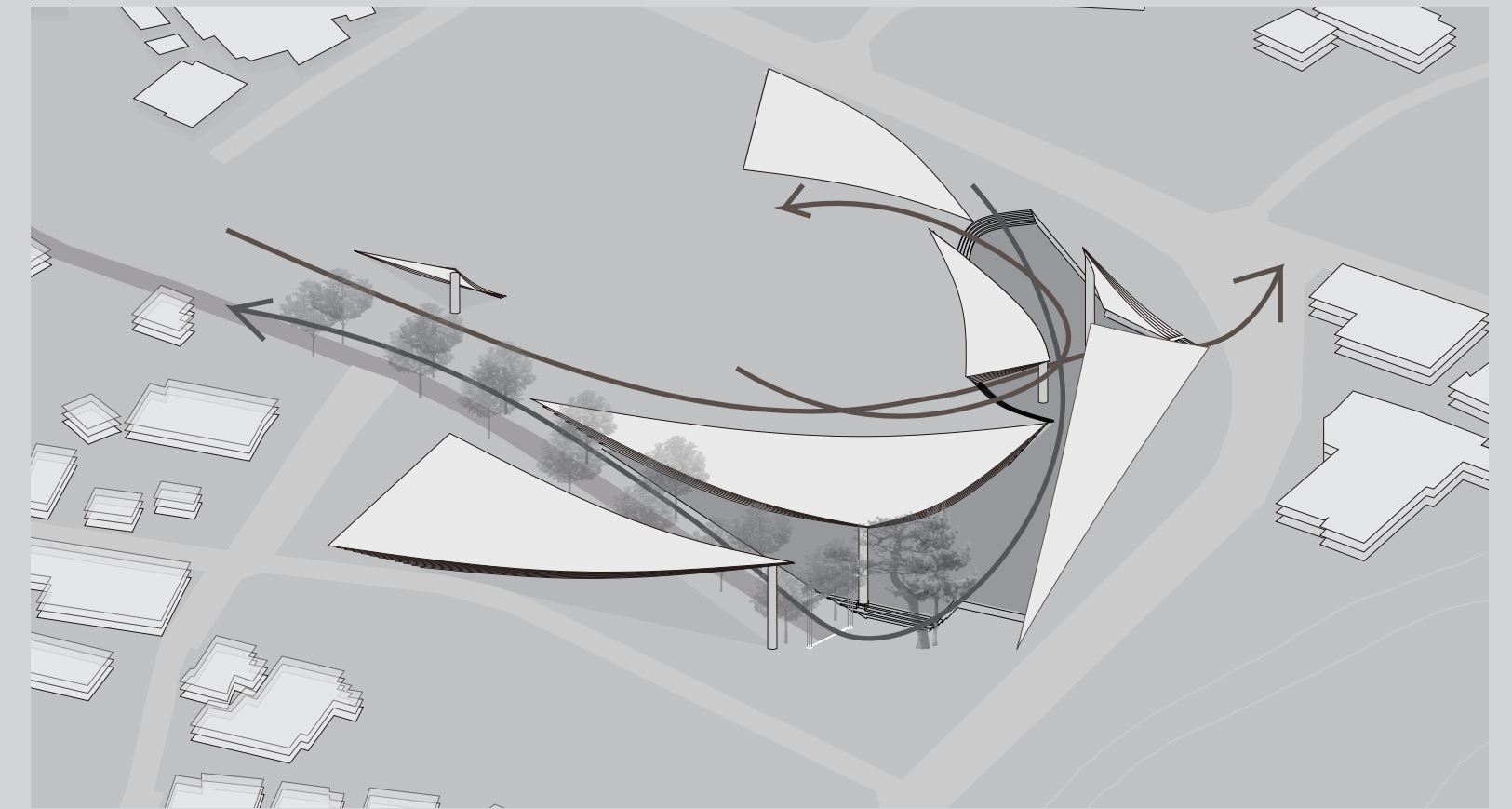
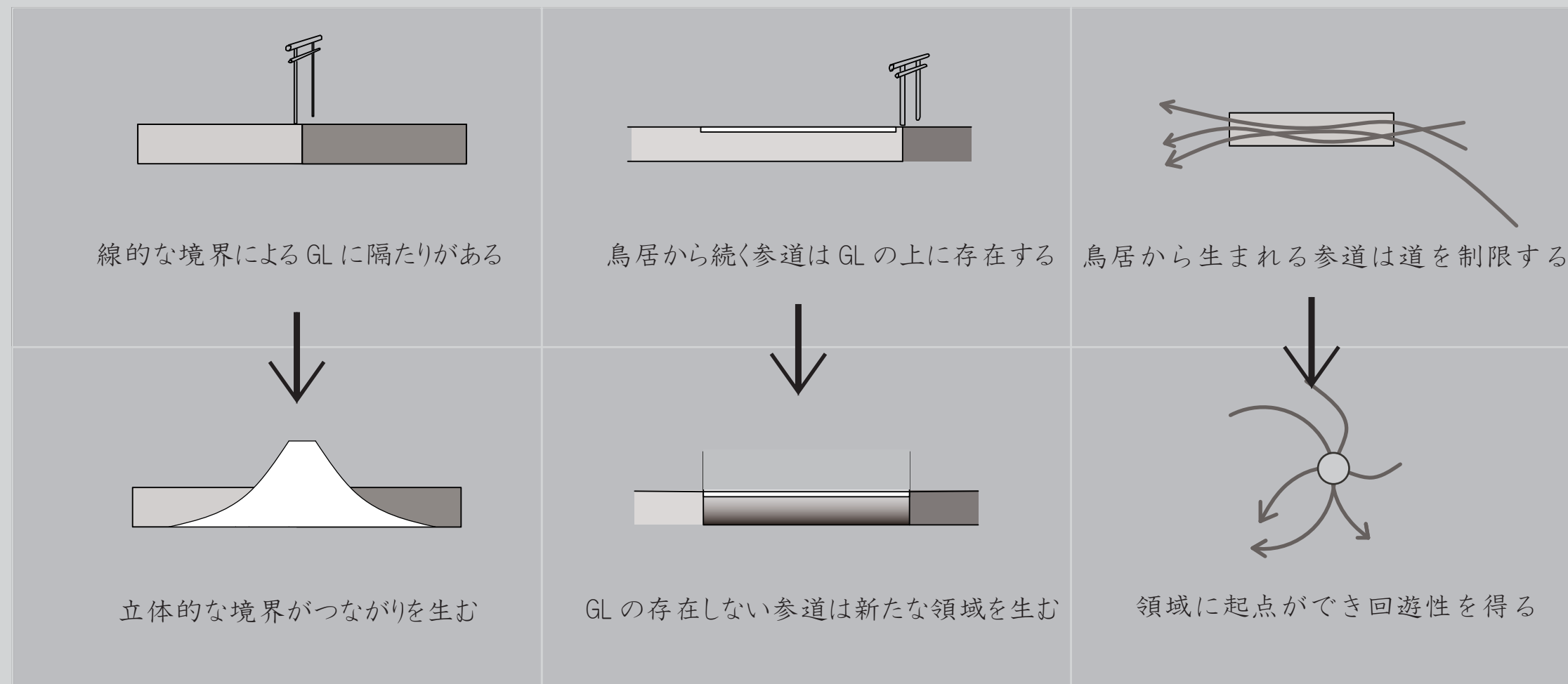
領域の再定義

神社の領域がどこまでなのか。  
その疑問が崩された領域を通して  
町と神社をつなぐ



# 新たな形態への提案

鳥居が持つ形態から形式を分析 → 形式の崩壊から新たな形態を構成



## 敷地 高麗神社 埼玉県日高市



高麗神社本殿

駐車場

参道を挟む形で配置

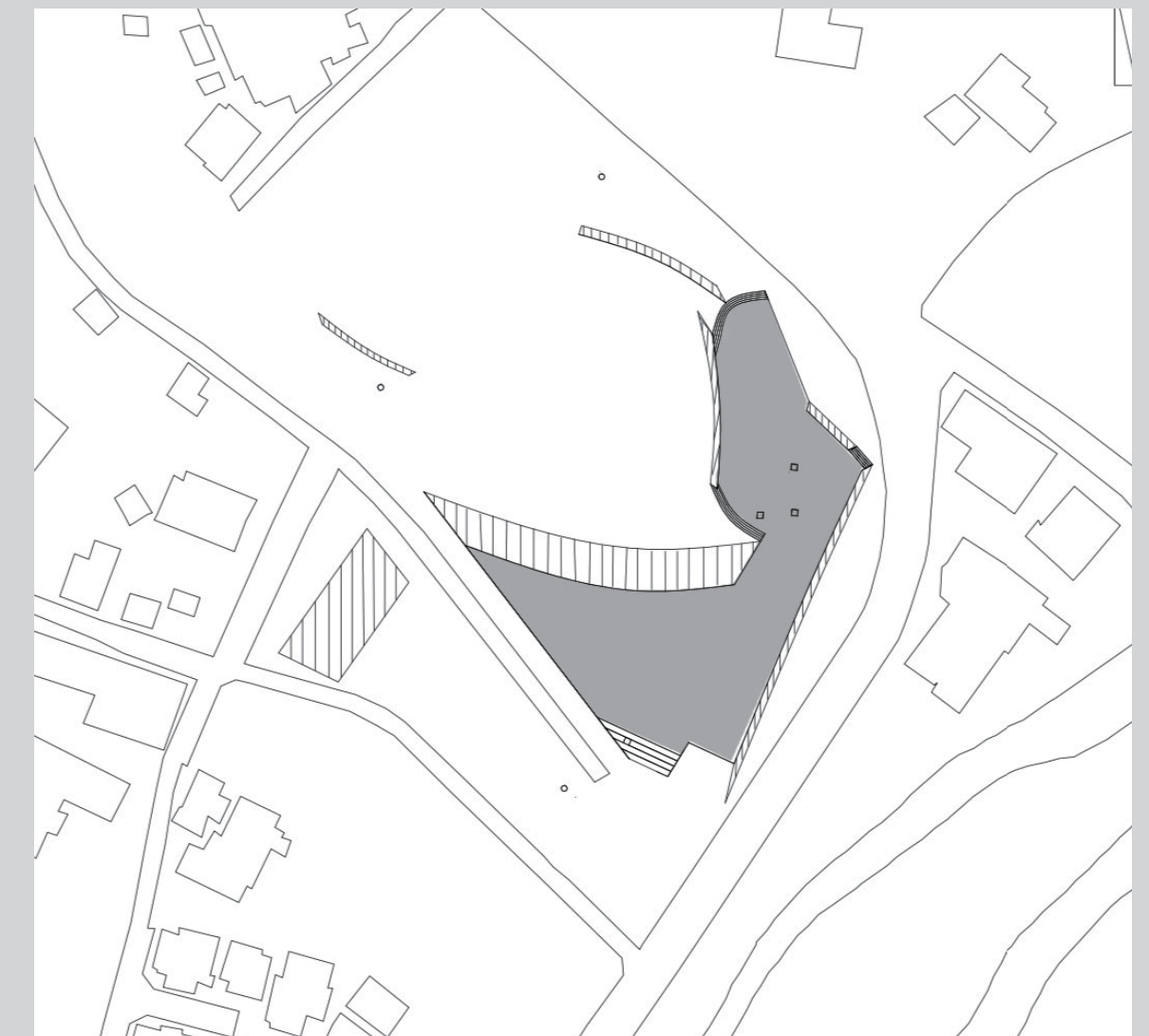
カワセミ街道

神社の外郭をなぞるように

第一の鳥居



配置図



平面図 GL + -0

